

ヨセフの信仰

創世記45章 1～28節

ある読書好きの奥さん、聖書はよく読むのですがなかなか信じません。こんなことを言い出しました。「私もヨセフさんみたいに人生トントン拍子にうまく行ったら、神様を信ずることが出来たと思います。」しかし、ヨセフは決してとんとん拍子ではありませんでした。父ヤコブから離れて、すでに22年の年月が経過していました。（その間、奴隷として13年、初めの豊作が7年、次の飢饉が始まってから2年が経とうとしていました。）

——— 苦勞の連続だった

た ———

この22年間、ヨセフは苦勞の連続でした。彼は下りに下った人（落ちる所まで落ちた人）でした。①井戸に下り（落とされ） ②エジプトに下り（奴隷として売られ） ③牢獄に下り（無実の罪で）しました。しかし、この間ヨセフは①ひねくれませんでした。②自信を無くしたりしませんでした。③劣等感を持ったりしませんでした。④あきらめたりしませんでした。もちろん ⑤神様を恨んだり、疑ったりなどしませんでした。

そんな、ヨセフに神様はいつも共にいてくださいました。時が来ました。チャンスは必ず来ます。そして、ついにヨセフは今、「上る」ことができました。

(ロマ5：1～5節、読む) 彼は、患難——忍耐——練られた品性——そして希望を、神様からいただいたのでした。この様にして、彼は成長して行ったのです。

ロマ8：28節「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」

まさに、ヨセフはロマ8：28節のみことばのごとく生きた人でした。

——— 隠していられなくな

った ———

そして、いよいよヨセフの物語もクライマックスをむかえようとしています。前回の44章では、兄ユダの罪の告白や、言葉を尽くして悔い改めている姿を見ました。「自分を身代わりにしても良い」と言ってまでいる彼の愛に感動しました。そんなユダの姿を見ていて、

ここまで来ると、ヨセフはもう耐えられなくなりました。今までの張りつめた思いが、一気に破れました。そして・・・、

——— 涙の告白

———
45；1，2節「ヨセフは、そばに立っているすべての人の前で、自分を制することができなくなって、・・・声をあげて泣いた。・・・」今、ヨセフは感情を抑えきれなくなりました。今までの長い間の苦労も孤独の悲しみも、兄弟への恨みも、完全に消えていました。しかし「皆を私のところから出さない」のことばからもわかるように、こらえきれないほど感情が切迫しているこの時でさえも、ヨセフは兄弟たちの恥をエジプト人には聞かせないように

と配慮をしています。そして、ついに告白します。

——— 私はヨセフで

す ———

(3、4節、読む)「私はヨセフです。父上はお元気ですか。」この言葉を聞いて、兄弟たちはどんなにか驚いたことでしょう。3節Bには「・・・驚きのあまり、答えることができなかった。」と書かれています。その一瞬は何がなんだかかわからず、頭が真っ白になってしまっていたのだと思います。しかし、すべての現実を目覚めた時、兄たちは過去に自分たちが行ったことがいやがおうにもよみがえってきました。自分たちはもうこれで終わりだ、と思った者もいたでしょう。そしてどんな仕打ちがこの後、来るかもと恐れたに違いありません。

5節、しかし、びっくりして気も仰天している彼らに向かって、彼らの心中を察して、ヨセフは言いました。「・・・私をここに売ったことで、今、心を痛めたり自分を責めたりしないでください。神はあなたがより先に私を遣わし、いのちを救うようにしてくださいました。・・・」今、ヨセフは兄たちを恨んだりしていません。どうしてでしょうか？

——— 摂理信仰

———
実はヨセフは「すべては神のみこころによる」という摂理信仰に堅く立っていたからでした。先程のみ言葉です。ロマ8：28節「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」

実は、5節と同じような言葉が繰り返されます。

7節「神が私をあなたがたより先にお遣わしになったのは・・・」

8節「・・・私をここに遣わしたのは、あなたがたではなく、神なのです。・・・」

今ヨセフの口から出ている、これらの言葉は、この物語の中心的なテーマです。ここではヨセフの究極的な摂理信仰が示されています。この摂理信仰によって、彼は兄たちを恨まないばかりか、今かえって兄たちを慰めています。彼は神様の助けによってでしょう、今ヨセフはそのような澄み切った心境に到達しています。

しかし、それに反して私たちはどうでしょう？

私たちは苦しいことが起こると、人を見て比較して、人を恨んだり、うらやんだりします。また失敗をすると、そんな自分を見て自信を失い、希望も未来も失ってしまいます。ヨセフも兄弟たちからひどい仕打ちを受け、親から離れて寂しい思いをし、屈辱的な罪を負い、奴隷の生活を体験しました。しかし、ヨセフは幸いでした。神と共に生きていたヨセフは、神様に祈り、聞きました。そして、知りました。22年間歩んできた人生の意味を理解しました。ですから、兄たちと出会った時も確信をもって、3回も繰り返して確信して言うことが出来ました。

5、7、8節「家族のみんなを救うために、神様は私を先にエジプトの地に私を遣わされたのです。神が全てをこの様になさったのです。」まさにヨセフは神の目で自分の人生を見えています。わたしたちも、自分を、自分の歩んでいる道を神の目で見つめたいですね。

ある方がいいました。「まことの苦難とは、意味がわからない苦難です。意味さえわかれば、どんな苦しみも苦しみではなくなります。」

味 ———

(あかし) ある教会学校に来ている子供の話です。彼は海外宣教師の話にいつも感動していました。ある晩、彼はおねしょをしてしまい、世界地図が書かれている蒲団の前に立たされていました。皆からからかわれていた時、彼は言いました。「イエス様は僕を海外宣教師として、遣わそうとしているのです。」彼は神の目でぬれた布団を見たのです。

(9～15節、読む) ヨセフの言葉によって、やがて兄弟たちも目の前で起こっている事が、神様の業であることを受け入れました。そして、皆が同じ神様の下で一つになることが出来ました。和解しあう事が出来ました。ここに、まさに感動的な光景をみることができます。

神様の御旨が、ヨセフの信仰を通して、いよいよ家族全体を動かし始めました。

——— 22年間は無駄にはならなかった ———

それにしても、この一家にとってこの22年間の苦しみは、無駄にはなりませんでした。① ヨセフはエジプトで苦しみに会うことによって、わがままな息子から成熟した指導者へと変わりました。

② 家族間の(兄弟、親子)憎悪、ねたみは飢餓やヨセフの作戦によって消えました。

③ 特にベニヤミンは、体を張って自分を守ってくれた兄のユダに感謝したことでしょう。

(まとめ)

さて、今日の学びをまとめてみましょう

ヨセフは、兄たちに奴隷として売られ、苦難の道

を歩まされましたが、ここにはひとかけらの恨み、憎しみ、怒り、認められません。なぜでしょう。それは、ヨセフが神様の目で物事を見るようにされていたからです。自分を奴隷に売った兄たちに目を向けるのではなく、その背後にあって、ヨセフをエジプトに遣わされた主に目を注ぎ、その主の立場ですべての物事を見たからでした。

——— 主の目で物事を見ると

き ———

主の目で物事を見るとき、

・第1に、人を許せるようになります。

兄たちが自分を奴隷に売った事、それは神様がヨセフを彼らより先にエジプトに送って、神様がそのヨセフを通してイスラエルを救う備えをするためであったことがはっきりと分かったからでした。ある人が「真の苦しみとは、理由のわからない苦しみである」と言いましたが、その通り。理由がわかってさえいれば、どんな苦しみも苦しみではなくなります。

主の目で物事を見るとき、

・第2は、意味を悟ることが出来るようになります。

すべての出来事の中にある、神様の摂理、意味が理解できるからです。「私はなぜここにいるのか、何をしなければならぬのか、今は待つ時か・・・等々。」神様が自分を通して何をなさろうとしておられるのか見えてくるのです。神様を中心とした考え方が身についてくると人生、助かります。

主の目で物事を見るとき、

・第3は、使命感が与えられます。神様の前にどの様に生きたらよいのかがわかります。

そして、ヨセフはイスラエルを救うために、父ヤコブをはじめ、その子たちすべてをエジプトに迎える準備を始めるのでした。

さて、45章の簡単なアウトラインは、大きく分けると次の通りです。

- ① ヨセフ、正体を明かす。(1～15節)
- ② 兄たち、ヨセフの事を父ヤコブに告げる。(16～28)　そして、後半です。

16～28節、さて、エジプト人も喜んでヨセフの兄弟たちを迎えました。エジプトの王ファラオは車を与えて父と家族を乗せて来るようにと命じました。20節、「家財に未練を残してはならない。**エジプト全土の最良の物は、あなたがたのものだから**」これは、私たちの歩みに対しても当てはまる言葉ですね。

私たちにも、永遠の御国において最上のものが約束されています。ですから、この世のものに未練を残さないで、後ろを振り向かないで、主の祝福を求め進みましょう。

28節「イスラエルは言った。「**十分だ**」・・・」

父ヤコブはエジプトに下っていく決断をします。それは、そこにヨセフがいるからでなく、神の導きであることを確信したからです。すでにヤコブはイスラエルになっています。

確かに、世的な人と、霊的な人とは、生きる価値観が、目の付け所が違います。

もう一度ロマ8章28節です。

「神を愛する人たち。すなわち、神のご計画にした

がって召された人たちのためには、すべてのことが
ともに働いて益となることを、私たちは知っています。」

（祈り）「主よ、あなたは人間的にはマイナスに思
えることを、すべて益に変えてくださるお方である
ことを信じて感謝します